国語科学習指導案

学校名：庄原市立庄原小学校

指導者：大谷 朋子

- 1 日 時 平成18年11月21日(火)
- 2 学 年 2年1組 33名
- 3 単元名 海のもの知りはかせになろう 「サンゴの海の生きものたち」
- 4 単元について

(1) 単元観

本単元は、書かれている説明を順序に気をつけながら大事なところをおさえて読み取っていくことを目標として設定されている。本教材は、サンゴのきれいな海の中で、生きものたちが共生している様子を「初め・中・終わり」という基本的な文章構成である。それぞれの生きものたちの共生の方法に着目して、順序立てて理解していくことが中心となる。

また 児童は、海の生きものたちのかかわり合いを通して、海の生きものたちの知恵に驚き、親しみをもって他の生きものたちはどうなのか調べてみようという意欲がもてるであろうと考える。そして、さらに疑問に思ったことを調べ、それを自分なりにまとめる学習を通して、読み取ったことを深めることができると考える。

(2) 児童観

本学級の児童は好奇心旺盛で、さまざまなことに意欲的に取り組み、わかる・できるようになることや、新しい知識を得ることの喜びを全身で表現する子どもたちである。

一学期の説明文「たんぼぼのちえ」の学習では、時間の順序や理由づけを示す言葉に着目しながら、4つの知恵をさがした。何度も音読をして、身近にあるたんぼぼが仲間をふやすために様々な知恵を働かせていることを絵に注目したり、動作を取り入れたりしながら学習を進めた。内容の大体の意味はつかむことができても、言葉に着目しながら読みを深めたり、根拠となる言葉を本文から見つけたりすることが難しい児童がいた。

「読む」活動では、読書朝会や家庭読書を継続して取り組む等、絵本やお話の読み聞かせの機会を多くしたことで、長い読み物も読もうとする児童も増えてきた。また音読が好きな児童が多く、教科書の文章や詩などを楽しく読んでいる。意欲的に音読活動に取り組み、会話文や声の大きさなど自分で工夫して読める児童がいる反面、長い文章を読むことが苦手な児童もいる。事柄の前後関係や主述の関係を正しく捉えられるよう、一つ一つの言葉にも着目させながら読み取る必要がある。

(3) 指導観

以上のような児童の実態をふまえて、次の三点に留意して指導にあたりたい。

一点目は、本文の二つの事例において、まずそれぞれの生きものの体の仕組みを読み取らせていく。その上で、「かかわり合う」というキーワードに着目させ、それらがお互いに共生している様子を順序立てて読み取らせる。また、その際、主語と述語に注意しながら、それぞれの関係をまとめせる。

二点目は、書かれている内容を理解させるために、役割を分担して動作化したり、ペープサー

トで表現したり自分の言葉でかかわり合いをまとめたり感想を発表したりさせたい。吹き出しに記入したり動作化したりすることも取り入れ、海に住む生きもの同士がかかわり合って暮らしていることをより深く理解することにつなげたい。その際、本文の叙述に根拠を求めるように意識付ける。

三点目は、他の資料で読み取ったことをもとに、生きものの体の仕組みや特徴を調べ、「海の生きもの物知り水族館」を作らせることである。教材文の読み取りの学習を生かし、興味をもった生きものについて、わかりやすい資料をもとに生きものについて調べ、ほかの友だちへ知らせる。このような他の海の生きものの秘密を知り、紹介し合う活動を通して生きものについて書かれた読み物に対する興味・関心を養っていききたい。

5 単元の目標

海の生きものやその共生関係，さらに説明文の組み立てに興味をもって読もうとする。

【国語への関心・意欲・態度】

「サンゴの海の生きものたち」互いに役立っていることを，事柄の順序に気をつけながら読む。

【C読む】

文の中における主語と述語の関係に注意して読む。

【言語事項】

6 単元の評価規準

関心・意欲・態度	(C) 読む能力	(言) 言語事項
海の生きものや，説明文の組み立てに興味をもって読もうとしている。	教科書の叙述から「サンゴの海の生きものたち」が互いに役立っていることを，事柄の順序に気をつけて正確に読んでいる。	主語・述語の関係に注意しながら読み取っている。

7 学習計画

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準(方法)
1	1	全文を読み，初発の感想を書く。 ・題名や写真からお話の内容を想像し，イメージを膨らませる。 ・音読をする。 ・初発の感想を書き，お互いに交流し合う。	・写真を元にイメージを広げる。 ・問題提示文に照らして読むという説明文の読み方の視点を持たせる。 (「だいじなところに気をつけて読もう」のリード文に結びつける)	説明文を読んでおもしろいところや，ふしぎなところを見つける。 (ノート)
2	1	問いの文を見付け，たがいに役に立つ，かかわり合うということはどういうことなのかをつかむ。 ・全文を音読する。 ・説明文の構成を知る。 ・意味段落1を音読する。 ・知っている海の生きものを出し合う。 ・「たがいに役に立つ」，「かかわり合う」と	・知っている海の生きもの出し合ってサンゴの海のイメージを膨らませる。 ・「たがいに役に立つ」，「かかわり合う」具体について考えさせることで，海の生きものたちのかか	問いの文を見付け，学習課題をつかむ。 (発表・ノート)

		<p>いうことについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問いの文がどこであることを考える。 ・問いの文を試写し，学習の見通しを持つ。 	<p>わり合いについて学習していくことをつかむ。</p>	
	2	<p>イソギンチャクとクマノミの特徴を読みとる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意味段落2を音読する。 ・イソギンチャクとクマノミの特徴を読み取り，(叙述に即して)ワークシートに書き込む。 ・イソギンチャクとクマノミの特徴について話し合い，まとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・動作化により自分の読み取った内容を発表できるようにする。 ・発表後の質疑応答では，根拠を本文の叙述に求めるように注意を促す。 	<p>イソギンチャクとクマノミの特徴を読み取ることができる。</p> <p>(ワークシート，発表)</p>
	3 本 時	<p>イソギンチャクとクマノミのかかわり合いを読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意味段落2を音読する。 ・ワークシートに相手とのかかわり合いを書き込む。 ・イソギンチャクとクマノミのかかわり合いをみんなの前で発表する。 ・かかわり合いについてまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・動作化により自分の読み取った内容を発表できるようにする。 ・発表後の質疑応答では，根拠を本文の叙述に求めるように注意を促す。 	<p>イソギンチャクとクマノミがどのようにかかわり合っているかについて主語・述語の関係に注意しながら読みとることができる。</p> <p>(ワークシート)</p>
	4	<p>ホンソメワケベラの特徴や大きな魚とのかかわり合いを読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全文(意味段落3)を音読する。 ・ホンソメワケベラの特徴を読み取る。 ・ホンソメワケベラと大きな魚とのかかわり合いを読み取る。 ・かかわり合いについてまとめる 	<ul style="list-style-type: none"> ・特徴については，写真と本文から読み取らせる。 	<p>ホンソメワケベラの特徴や大きな魚とのかかわり合いを主語・述語の関係に注意しながら読み取ることができる。(ワークシート)</p>
	5	<p>問いについての答えをまとめ，全体を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題提示文を確認する。 ・問いに対する答えをまとめる。 ・本文を読み終えての感想を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・最後の段落の「このように」に注目させ，問いに対する答えを考えさせる。 	<p>本文をまとめることができる。</p> <p>(ワークシート)</p>
3	1	<p>海の生きものについて調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海の生きもの物知り水族館をつくる手順を知る。 ・自分の調べたい海の生きものについて本で調べ，その生きもののひみつを書き出す。 		<p>生きものについて興味をもって調べることができる。</p> <p>(行動・カード・発表)</p>
	2	<p>自分の調べた秘密を紹介カードに書く。</p>		
	3	<p>自分の調べた海の生きものについて紹介し合う。</p>		

8 本時の展開

(1) 本時の目標

イソギンチャクとクマノミのかかわり合いを読み取ることができる。

(2) 本時の評価規準

教科書の記述から、イソギンチャクとクマノミのかかわり合いの様子を正確に読み取っている。

学習活動	指導上の留意点と支援	評価規準(方法)
<p>1 前時を想起する。 イソギンチャクとクマノミの特徴を確認する。</p> <p>2 学習課題を確認する。 イソギンチャクとクマノミはどんなかかわり合いをしているのだろうか。</p> <p>3 意味段落2を音読する。</p> <p>4 相手とのかかわり合いを読み取り、ワークシートに書き込む。 登場する生きものを確認する。 ・クマノミ、イソギンチャク、 小さな魚、大きな魚。 大きい魚がきたときのクマノミの行動を動作化する。 小さい魚がきたときのクマノミの行動を動作化する。</p> <p>5 イソギンチャクとクマノミのかかわり合いについてまとめる。 ワークシートへ書き込む。 発表する。</p> <p>6 次時の流れを知る。</p>	<p>・イソギンチャクの触手にどくのはりがあること、クマノミの体はねばねばした液でおおわれており、カチカチ音を出せること等を押さえる。</p> <p>本時の課題を意識して音読できるように課題を先に提示する。 「かかわり合い」という表現を想起させる。</p> <p>ペープサートを使用し、動作化する。</p> <p>本文「こうして...守りあっているのです。」の「こうして」に着目させ、かかわり合いをまとめさせる 本文の叙述に沿ったまとめをさせる。 ワークシートに「クマノミは...」「イソギンチャクは...」という主語を提示することで、それぞれの行動をまとめる。</p>	<p>イソギンチャクとクマノミがどのようにかかわり合っているかを読みとることができる。 (ワークシート)</p>